

Ver 1.1

オフセット・クレジット(J-VER)制度に基づく 温室効果ガス排出削減プロジェクト計画書

プロジェクト名	日東薬品工業株式会社長田野工場における高効率空調機、及びポンプ・ファンのインバータ化による温室効果ガス削減事業 (エコ活動による地球の健康改善プロジェクト)
プロジェクト 代表事業者名	日東薬品工業株式会社 代表取締役 社長 北尾 哲郎 印

提出日 平成 23 年 02 月 25 日

受理日 平成 23 年 02 月 28 日

最終版提出日 平成 23 年 03 月 26 日

A : 参加者情報			
プロジェクト代表事業者 ※1			
事業者名(フリガナ)	日東薬品工業株式会社 (ニットウヤクヒンコウギョウカブシキガイシャ)		
住所	京都府向日市上植野町南開 3 5 - 3		
代表者氏名	北尾 哲郎	担当者氏名	坂本 淳
担当者所属	業務管理本部	担当者役職	課長
担当者 E-mail	a.sakamoto@nitto-ph.com	担当者電話番号	075-921-5344
プロジェクトでの役割	プロジェクト代表事業者		
プロジェクト事業者(排出削減実施事業者) ※2			
事業者名(フリガナ)	日東薬品工業株式会社 (ニットウヤクヒンコウギョウカブシキガイシャ)		
住所	京都府向日市上植野町南開 3 5 - 3		
代表者氏名	北尾 哲郎	担当者氏名	坂本 淳
担当者所属	業務管理本部	担当者役職	課長
担当者 E-mail	a.sakamoto@nitto-ph.com	担当者電話番号	075-921-5344
プロジェクトでの役割	プロジェクト実施事業者		
プロジェクト事業者(排出削減実施事業者) ※2			
事業者名(フリガナ)	三井住友ファイナンス&リース株式会社 (ミツイスミトモファイナンスアンドリースカブシキガイシャ)		
住所	東京都港区西新橋三丁目 9 番 4 号		
代表者氏名	石田 浩二	担当者氏名	大壽賀 憲一
担当者所属	環境事業部	担当者役職	部長補佐
担当者 E-mail	kenichi-oosuga@smfl.co.jp	担当者電話番号	06-6282-2649
プロジェクトでの役割	オフセット・クレジット申請の技術支援・クレジットマッチング支援等		
プロジェクト参加者 ※3 ※4			
事業者名(フリガナ)	グンゼエンジニアリング株式会社		
住所	兵庫県尼崎市塚口本町 4 丁目 8-1		
代表者氏名	赤木 庸二	担当者氏名	太田 光雄
担当者所属	エネルギーソリューション部	担当者役職	部員
担当者 E-mail	mitsuo.ohta@gunze.co.jp	担当者電話番号	06-6423-5000
プロジェクトでの役割	オフセット・クレジット申請の技術支援・クレジットマッチング支援等		
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者 ※5			
事業者名(フリガナ)	日東薬品工業株式会社 (ニットウヤクヒンコウギョウカブシキガイシャ)		
オフセット・クレジット (J-VER)口座番号 ※6			

ダブルカウントの防止の措置 ※7	
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	プロジェクト代表事業者 日東薬品工業株式会社
ダブルカウントの防止措置内容	<p>以下、該当する場合は、□に✓を入れ、必要に応じて詳細を記入してください。 (オフセット・クレジット(J-VER)制度実施規則 1.4「クレジットの二重使用」参照)</p> <p>【①類似制度に基づく二重認証に関するダブルカウントの防止措置】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 類似制度へ申請しておらず、当該プロジェクトにおいて確保された削減量・吸収量については、オフセット・クレジット(J-VER)制度以外の制度によって、当該プロジェクトに付随する温室効果ガス削減・吸収という環境に関わる付加価値(以下、「環境価値」という。)の認証を取得しません。</p> <p><input type="checkbox"/> 以下の類似制度(電力における RPS 法を含む)に申請しています</p> <p style="padding-left: 40px;">類似制度名: _____</p> <p><input type="checkbox"/> 当該プロジェクトにおいて確保された削減量・吸収量については、オフセット・クレジット(J-VER)制度以外の制度によって、当該プロジェクトに付随する環境価値の認証を取得しておらず、今後も取得しません。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該プロジェクトにおいて確保された削減量・吸収量については、オフセット・クレジット(J-VER)制度以外の制度によって、当該プロジェクトに付随する環境価値の認証を取得しているため、その分を控除いたします。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該プロジェクトにおいて確保された削減量・吸収量については、オフセット・クレジット(J-VER)制度以外の制度によって、当該プロジェクトに付随する環境価値の認証を取得していますが、以下の理由によりダブルカウントが生じていないことを証明します。</p> <p style="padding-left: 40px;">理由: _____</p> <p>【②第三者に環境価値を移転する際のダブルカウントの防止措置】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該プロジェクトにより生み出されたエネルギー等(電気、バイオガス等)を第三者に売却する際に、その売却先に対して、環境に関わる付加価値はクレジット化されており、当該エネルギー等の価値には付随していないこと、及び、当該エネルギー等の価値の帰属先と、環境に関わる付加価値の帰属先が異なることを明示する「説明文書」を作成して、売却先に示します。</p> <p><input type="checkbox"/> 森林管理プロジェクトの場合、当該プロジェクトの対象となった森林を第三者に譲渡する際に、その譲渡先に対して、環境価値はクレジット化されており、当該森林には付随していないこと、及び、当該森林の所有権の帰属先と、環境価値の帰属先が異なることを明示する説明文書を作成して譲渡先に示します。あわせて、当該森林の譲渡の際には、オフセット・クレジット(J-VER)制度利用約款森林管理プロジェクト特約の内容にも十分に留意します。</p> <p>※第三者が、当該プロジェクトから生じる環境に関わる付加価値がオフセットクレジット(J-VER)として使用されていることを知らずに、当該付加価値を二重に主張することを防ぐ必要があるため、妥当性確認時において、これらの防止措置が講じられる体制にあること(上記の「説明文書」の作成等)を確認する必要がある。</p> <p>【③自主的な報告・公表を実施する際のダブルカウントの防止措置】</p> <p><input type="checkbox"/> 以下の自主的な報告・公表媒体において、当該プロジェクトの内容、当該クレジットの発行量及び当該クレジット発行量のうち当事業者が無効化したクレジット量(環境価値を他者に譲渡していないもの)を明記します。</p>

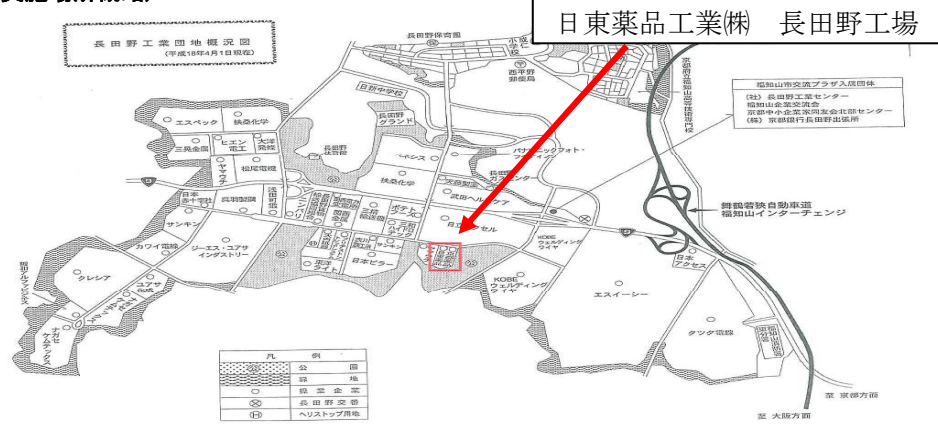
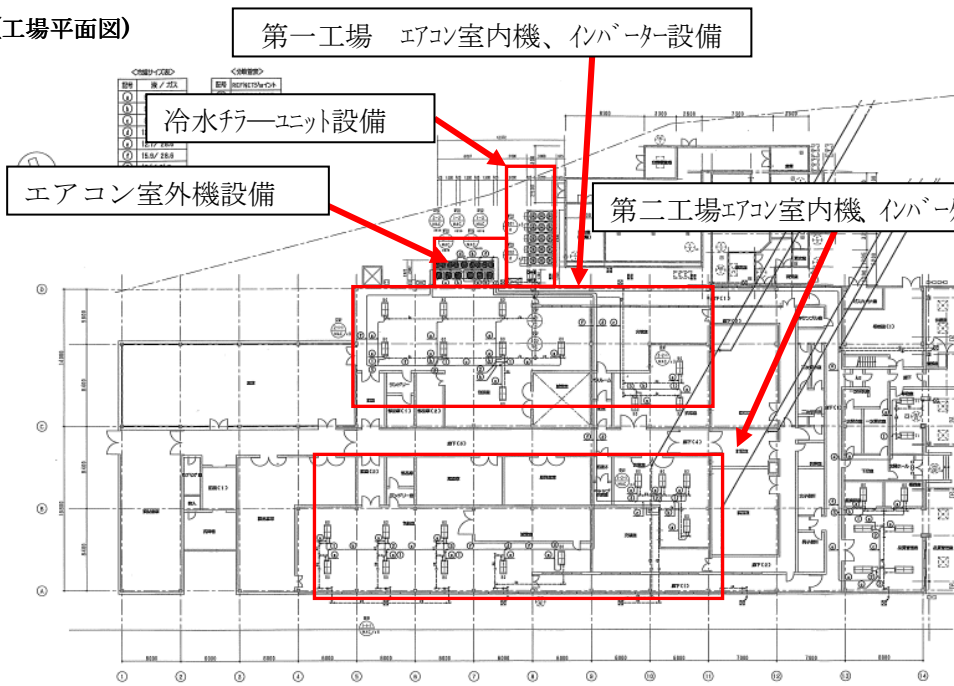
	<p>あわせて、当該プロジェクトにおいて発行されたクレジット量については、環境価値の帰属を主張しません。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量(環境価値を他者に譲渡していないもの)については除きます。</p> <p><input type="checkbox"/> ホームページ ホームページ URL: _____</p> <p><input type="checkbox"/> 出版物 (環境報告書/定期刊行物)</p> <p><input type="checkbox"/> その他 具体的に: _____</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 現在は、自主的な報告・公表を実施していないが、今後実施するにあたっては、当該プロジェクトにおいて発行されたクレジットについては、環境価値の帰属を主張しません。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量(環境価値を他者に譲渡していないもの)については除きます。</p> <p>【④公的な報告・公表制度におけるダブルカウントの防止措置】</p> <p><input type="checkbox"/> 公的な報告・公表制度には参加していません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 以下の公的な報告・公表制度に参加しています</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 地球温暖化対策推進法に基づく算定・報告・公表制度の対象者である。</p> <p><input type="checkbox"/> 地球温暖化対策推進法に基づく地方公共団体実行計画(区域施策)の策定義務対象者(都道府県)である。</p> <p><input type="checkbox"/> 「排出量取引の国内統合市場の試行的実施」参加事業者である。</p> <p><input type="checkbox"/> 地方公共団体が実施する以下の制度の対象事業者である。 制度名: _____</p> <p><input type="checkbox"/> その他 具体的に: _____</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該報告・公表制度等において、当該プロジェクトにより発行されたクレジット量については排出量とみなし報告します。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量(環境価値を他者に譲渡していないもの)は除きます。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該報告・公表制度等において、当該プロジェクトにより発行されたクレジット量について報告する必要はないため、クレジット発行量については排出量とみなし、当該報告・公表制度の報告様式における適切な備考欄に記載します。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量(環境価値を他者に譲渡していないもの)は除きます。</p> <p>当該報告・公表制度等において、当該プロジェクトにより発行されたクレジット量について報告する必要はないため、クレジット発行量については排出量とみなし、自主的な報告・公表値において報告します。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量(環境価値を他者に譲渡していないもの)は除きます。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※1:プロジェクト代表事業者のパンフレット等、事業内容の説明資料を別途添付すること。プロジェクト代表事業者以外の主なプロジェクト事業者・プロジェクト参加者についてもパンフレット等を添付すること。

- ※2:プロジェクト事業者とは、当該プロジェクトの実施に携わる者のうち、実際に温室効果ガス排出削減活動を実施する者を指す。プロジェクト代表事業者と同一の場合は、その旨を記載すること。
- ※3:プロジェクト参加者とは、プロジェクト代表事業者・プロジェクト事業者以外に当該プロジェクトの実施に携わるすべての者を指す。たとえば、下記が参加者として想定される。
 - ・ 温室効果ガス排出削減活動の実施に際して設備導入等のアドバイスをを行う ESCO 事業者等
- ※4:プロジェクト参加者が複数いる場合には、それぞれの参加者の役割及び関係の概要を説明した資料を添付すること。
- ※5:オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者は、プロジェクト代表事業者、プロジェクト事業者、プロジェクト参加者のうちのいずれかであること。
- ※6:オフセット・クレジット(J-VER)口座番号は、口座未取得の場合は記入不要。
- ※7:オフセット・クレジット(J-VER)の発行がなされる場合、ダブルカウントを避けるための所要の措置をとる義務が生じる。詳細は、オフセット・クレジット(J-VER)制度利用約款を参照すること。

B : プロジェクト活動の概要①	
B.1	項目
プロジェクト活動	<p>B.1.1 プロジェクトの目的及び内容</p> <p>【目的】 熱源設備を更新し、ヒートポンプを導入することで、消費電力量削減に伴う CO2 排出量の削減を図る。 多段階調節ができない既存のポンプ・ファンをインバータ化することで、消費電力量削減に伴う CO2 排出量の削減を図る。 本 PJ で発行したクレジットの売却益を地域の社会福祉貢献のため福知山市社会福祉協議会に寄付を予定している。 また、チラーの冷媒を R 2 2 から R 4 1 0 A に変更することでオゾン層破壊のない冷媒を使用することで、環境保全に貢献する。またチラーを冷却塔の補給水を多量に使う水冷式から空冷式チラーに変更することで大幅な節水を行い環境保全に貢献することも目的としている。</p> <p>【内容】 日東薬品工業株式会社 長田野工場の空調熱源を、高効率チラー及び高効率パッケージエアコンへ更新することで、消費電力量削減に伴う CO2 排出量の削減を図る。 また、日東薬品工業株式会社 長田野工場のエアハンドリングユニット及び冷水ポンプにインバータ制御を導入することで、消費電力量削減に伴う CO2 排出量の削減を図る。</p> <p>B.1.2 プロジェクト実施前の状況</p> <p>1. ヒートポンプの導入前：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱源は、冷水チラー及び蒸気ボイラ ・ 一般空調ゾーンは、外気をエアハンドリングユニットにて外気処理（冷房：冷水、暖房：蒸気）し、室内は主にファンコイルユニットにて温度調節（冷房：冷水、暖房：蒸気熱源の温水）。空調時間は工場稼働時のみ。 ・ クリーンルームは、エアハンドリングユニットにて、外気及び還気処理し、室温を冷房時 26℃、暖房時 22℃で湿度は再加熱処理により、50%一定制御実施。 <p>2. ポンプ、ファンのインバータ化実施前：</p> <p>ポンプ、エアハンドリングユニットは、一定速制御。</p>

	<p>B.1.3 排出削減・吸収の達成手段</p> <p>1. ヒートポンプの導入実施：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般空調ゾーンは、ファンコイルユニットをパッケージエアコンへ更新し冷房時の効率アップと同時に暖房時ヒートポンプ化されるところで省エネを行う ・ クリーンルーム及び一般空調外気処理は、水冷チラーから高効率空冷チラーへ更新し、補機動力を削減することで省エネを行う <p>2. ポンプ、ファンのインバータ化の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冷水ポンプは、負荷に応じてインバータで回転数制御を実施するとともに、高効率モーター・メカニカルシールを採用し、省エネを行う。 ・ エアハンドリングユニットは、吹き出し口のVAV制御に応じて、インバータでファンの回転数制御を行うことで省エネを行う。 																																								
<p>B.2 採用 技術</p>	<p>(プロジェクト対象地の位置図、プロジェクト対象地全体の地図等を用いて、プロジェクト実施場所について分かりやすく説明する。その他、別紙「プロジェクト申請方法について」に記載する資料を適宜添付する。)</p>																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>機器容量</th> <th>メーカー名</th> <th>耐用年数</th> <th>型番</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空冷モジュールチラー</td> <td>85kW</td> <td>ダイキン工業株式会社</td> <td>15年</td> <td>UWXYM850A</td> </tr> <tr> <td>ビルマルチエアコン室外ユニット</td> <td>69kW</td> <td>ダイキン工業株式会社</td> <td>15年</td> <td>R RXUP690B</td> </tr> <tr> <td>ビルマルチエアコン室外ユニット</td> <td>33.5kW</td> <td>ダイキン工業株式会社</td> <td>15年</td> <td>RXUP335B</td> </tr> <tr> <td>ビルマルチエアコン室外ユニット</td> <td>80kW</td> <td>ダイキン工業株式会社</td> <td>15年</td> <td>RXUP800B</td> </tr> <tr> <td>ビルマルチエアコン室外ユニット</td> <td>28kW</td> <td>ダイキン工業株式会社</td> <td>15年</td> <td>RXUP280B</td> </tr> <tr> <td>空調機送風量 9300m³</td> <td>5.5kW</td> <td>新晃工業(株)</td> <td>15年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>空調機送風量 3100m³</td> <td>1.5kW</td> <td>新晃工業(株)</td> <td>15年</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機器名	機器容量	メーカー名	耐用年数	型番	空冷モジュールチラー	85kW	ダイキン工業株式会社	15年	UWXYM850A	ビルマルチエアコン室外ユニット	69kW	ダイキン工業株式会社	15年	R RXUP690B	ビルマルチエアコン室外ユニット	33.5kW	ダイキン工業株式会社	15年	RXUP335B	ビルマルチエアコン室外ユニット	80kW	ダイキン工業株式会社	15年	RXUP800B	ビルマルチエアコン室外ユニット	28kW	ダイキン工業株式会社	15年	RXUP280B	空調機送風量 9300m ³	5.5kW	新晃工業(株)	15年		空調機送風量 3100m ³	1.5kW	新晃工業(株)	15年	
	機器名	機器容量	メーカー名	耐用年数	型番																																				
	空冷モジュールチラー	85kW	ダイキン工業株式会社	15年	UWXYM850A																																				
	ビルマルチエアコン室外ユニット	69kW	ダイキン工業株式会社	15年	R RXUP690B																																				
	ビルマルチエアコン室外ユニット	33.5kW	ダイキン工業株式会社	15年	RXUP335B																																				
	ビルマルチエアコン室外ユニット	80kW	ダイキン工業株式会社	15年	RXUP800B																																				
	ビルマルチエアコン室外ユニット	28kW	ダイキン工業株式会社	15年	RXUP280B																																				
	空調機送風量 9300m ³	5.5kW	新晃工業(株)	15年																																					
空調機送風量 3100m ³	1.5kW	新晃工業(株)	15年																																						

B.3 プロジェクト実施場所 概要	実施事業所名	日東薬品工業株式会社 長田野工場
	住所	(プロジェクト実施場所が複数ある場合は、全ての住所を表形式等で記述する。) 京都府福知山市長田野町2丁目62の2
		<p>(実施場所概略)</p>  <p>(工場平面図)</p>  <p>(設備導入図)</p> <p>SS-E017 【資料 2】 既存のファン、ポンプ設備の換装または制御装置の設置を示す資料参照</p>

B : プロジェクト活動の概要②							
B.4 プロジェクト期間 ※1	2011年4月1日～2013年3月31日(2年)						
B.5 クレジット期間 ※2	2011年4月1日～2013年3月31日						
B.6 想定排出削減量 ※3	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	0	0	0	47	47	94
B.7 モニタリング報告の頻度	年1回						
B.8 補助金	受給の有無(いずれかに○)	受給している / 申請中 / 検討中 / 受給しない					
	補助事業名称/補助元	地球温暖化対策推進事業費補助金 温室効果ガス排出削減・吸収クレジット創出支援事業/環境省					
	補助金額(申請額含む)	16,160,000円					
	補助金の用途	・ヒートポンプの導入(空冷モジュールチラー、空調機、エアコン等購入設置等) ・ポンプ、ファンのインバータ化(ポンプ、インバーター等購入設置等)					
	補助対象年月日	交付決定通知日 2010年12月28日 ～2011年3月31日					
	補助金を受給していることを証明する書類	(証拠書類の名称を記入し、別紙「プロジェクト申請方法について」の添付資料一覧に補助金交付通知書等を加えた上で、証拠書類を添付する。) SS-E017【資料1-S】参照					
B.9 他制度への申請 ※4	申請の有無(いずれかに○)	有 / 無					
	制度名(有の場合のみ)						
備考	<p>① プロジェクトの排出削減量やプロジェクトの実施に影響を与える現在もしくは将来的なリスク要因を特定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒートポンプ設備の効率低下要因は屋外機のコイルの汚れ、つまり等が考えられる。 ・インバーター設備に付いては循環水の汚れによる、配管抵抗の増加等が考えられる。 <p>② 各リスク要因に対する影響の軽減措置を記述する(リスクの例については、「記入要領」を必ず参照のこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒートポンプ設備屋外機のコイルの汚れは定期的な(2回/年)の清掃により対処する。 ・インバーター設備に付いては循環水が閉回路で循環しており、汚れによる問題は対策されている。 						

※1:2008年4月1日以前に開始されたプロジェクトについて申請する場合には、本制度によるクレジット収益が無ければプロジェクトの継続が困難であることを、別添資料で説明すること。

※2:クレジット期間は、2008年4月1日～2013年3月31日の間で設定すること。

※3: 想定排出削減量の算定根拠をモニタリングプランで提示すること。

※4: 国内クレジット制度や海外の VER 制度等、類似制度への申請の有無を記入。これは、一つのプロジェクトによる排出削減量に基づくクレジットが複数創出される等の、ダブルカウントを避けるためである。

C:方法論の適用		
C.1 ポジティブ リストの適格性 基準との整合 性①	C.1.1 ポジティブ リストの番 号	<u>No. SS-E. 017 ver. 1.0</u>
	条 件	説 明 ※1
	C.1.2 条件1	既存の、ファン、ポンプ設備において換装またはインバーター制御を行う装置を設置する。
	C.1.3 条件2	更新対象のポンプ、空調機ファンは流量制御を行う為にバルブ、ダンパーによる開度調整を行い、ポンプ、ファンに不要な負荷をかけている。また、運転状態は ON、OFF のみの調節が可能であり、多段階調節が出来ない。SS-E017【資料 2-2】参照
	C.1.4 条件3	プロジェクトで対象とする設備以外に同一系統内にファン、ポンプ設備の別途導入が行われない。
	C.1.5 条件4	空調対象設備はクリーンルームであり、運転は通年を通して行われる。空調負荷は季節により大きく変動するが、現状のポンプ、ファンの運転は一定の運転状態である。この場合の電力消費削減に最も有効な手段は変動負荷に沿った機器の運転を行うことであり、インバーターによる回転数制御が相応しい手段である。また、ファン、ポンプ動力所要動力が大幅に低下するような、設備変更が講じられていない。
	C.1.6 条件5	<p>本プロジェクトの採算性は、又は他の選択肢と比べて採算性が低く以下の資料の様に、投資回収年数が3年以上である。</p> <p style="text-align: right;">SS-E017【資料 5 参照】</p> <p style="text-align: center;">< 投資回収年数の計算 ></p> $\text{投資回収年数} = \frac{\text{設備投資費用} - \text{補助金}}{\text{化石燃料や電力の削減量} \times \text{価格}}$ $= \frac{(13,400,000 - 4,466,000)}{1,427,683}$ $= 6.3 \text{ 年}$ <p>以上から、投資回収年数が3年以上であり、採算性がない。</p>

C.1 ポジティブ リストの適格性 基準との整合 性②	C.1.1 ポジティブ リストの番 号	No. SS-E. 019 ver.1.2
	条 件	説 明 ※1
	C.1.2 条件1	<p>熱源設備の更新の際に、高効率ヒートポンプ設備を導入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のチラー設備は問題なく運転しており、本更新を行わなかった場合においても、既存の熱源設備が継続して利用可能であります。 ・本更新計画は熱源設備の故障による更新ではありません。 <p>SS-E19【資料 8】参照</p>
	C.1.3 条件2	<p>本ヒートポンプで製造した冷水、暖房、冷房熱量は全て工場内で自家消費する。また、本ヒートポンプ設備は空冷式であり、既存の冷却塔、冷却塔ポンプ、冷水2次ポンプの一部は撤去致します。</p>
	C.1.4 条件3	<p>ベースライン、プロジェクトともにエネルギー源は化石燃料または電力である。</p>
	C.1.5 条件4	<p>本ヒートポンプ設備はカタログからも明らかで、空冷であり熱の回収が行われていないのは明らかである。</p>
C.1.6 条件5	<p>本プロジェクトの採算性は、又は他の選択肢と比べて採算性が低く以下の資料の様に、投資回収年数が3年以上である。</p> <p style="text-align: center;">SS-E019【資料6参照】</p> <p><投資回収年数の計算></p> $\text{投資回収年数} = \frac{\text{設備投資費用} - \text{補助金}}{\text{化石燃料や電力の削減量} \times \text{価格}}$ $= \frac{56,600,000 - 11,694,000}{1,393,741} = 32.2 \text{ 年}$ <p>以上から、投資回収年数が3年以上であり、採算性がない。</p>	
C.2 適用方法 論	方法論番号	<p>JEAM SS-E017 ver.1.0</p> <p>JEAM SS-E019 ver.1.2</p>
	方法論名称	<p>JEAM SS-E017 ver.1.0 : 「ファン、ポンプ類の換装またはインバーター制御、台数制御機器の導入」</p> <p>JEAM SS-E019 ver.1.2 : 「ヒートポンプの導入」</p>

C.3 適用する ガイドライン等	C.3.1 ガイド ライン等への 準拠	<p>(オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドラインに準拠しない場合の説明)</p> <table border="1" data-bbox="587 302 1332 504"> <thead> <tr> <th>該当する</th> <th>準拠の説明</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>全く準拠しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>一部準拠しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>全て準拠する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 全て準拠する場合は、説明は不要。</p>	該当する	準拠の説明	説明	<input type="checkbox"/>	全く準拠しない		<input type="checkbox"/>	一部準拠しない		<input checked="" type="checkbox"/>	全て準拠する	
該当する	準拠の説明	説明												
<input type="checkbox"/>	全く準拠しない													
<input type="checkbox"/>	一部準拠しない													
<input checked="" type="checkbox"/>	全て準拠する													
C.4 ベースラ インシナリオ (BLS)	C.4.1 BLS の 特定	<p>(プロジェクトが実施されなかった場合の状態(ベースラインシナリオ)の説明)</p> <p>制御設備を導入しない状態での既存ファン・ポンプ設備の使用に伴う電力消費により CO2 が発生する。 熱源設備の更新を行わずに、既存の設備を使用し、CO2 が発生する。</p> <p>(ベースラインシナリオを特定する際に信頼度及び入手可能性が低いデータを使用した場合、特定したベースラインシナリオが適切であることの根拠を以下に説明すること) 該当なし。</p>												
	C.4.2 BLS に関連した温 室効果ガス排 出源の特定	<p>(リーケージ(プロジェクトの実施により生じるプロジェクトバウンダリー外での温室効果ガス排出量の増加)が想定される場合には以下に説明し、モニタリングプランにおいて定量化すること)</p> <p>ファン・ポンプの更新、及び一部設備撤去で、プロジェクトにより改修されるファン・ポンプ類設備が、他所でより効率的の高い設備の代りに利用されることはなく、廃却される。また、冷媒ガス R22 も法令の定める方法で処分する。</p>												
C.5 排出量・吸 収量の定量化	C.5.1 不確か なデータの使 用	<p>(削減量の定量化において不確かなデータを使用している場合には、削減量の過大評価がないことを以下に説明すること)</p> <p>特になし。</p>												
C.6 備考		<p>(プロジェクトとベースラインシナリオにおける製品又はサービス活動の種類と水準に著しい差異がある場合には以下に説明すること)</p> <p>本 PJ では、プロジェクト実施前後で熱源設備の容量が増加する。そのため、ベースライン排出量に対する補正を実施する。 補正方法は、方法論 E019 5.1 に記載されている①の方法とする。詳細は以下である。</p> <p>ヒートポンプの稼働時間をモニタリングし、プロジェクト実施後に熱源設備で生成された熱量は、既存熱源設備を最大容量で稼働させた場合の最大熱供給量を上限とし、それを上回る生成熱量は算定対象に含めない。</p> <p>(ベースラインの設定に関連する事情の変更等により、将来、プロジェクトを中止しなければならない状況が想定される場合にはその旨以下に説明すること)</p> <p>特になし</p>												

	(プロジェクト排出量がベースライン排出量より増加するリスクがある場合にはその旨以下に説明すること) 特になし
--	-----------------------------------------------------------

※1: ポジティブリストの条件を全て満たすことを、証拠書類等をもとに説明する。説明にあたっては、証拠書類等の該当箇所が明確になるよう、対応ページ・箇所の明示を行うこと。なお、説明に使用した資料は、名称及び添付資料番号を明記し、別紙「プロジェクト申請方法について」の添付資料一覧に整理すること。また、投資回収年数等について記載しきれない場合には、別添資料で説明してもよい。

D: その他				
D.1 関連する許認可及び関連法令等	<p>(想定される関連法令等については、別紙「オフセット・クレジット(J-VER)制度における手続きについて」の方法論ごとの記載を参照のこと)</p> <p>なお、ここに記載した法令等は、あくまでも想定される主な法令であり、他にも関連する法令等の有無について確認すること。</p>			
			該当しない	該当する
	1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	■	<input type="checkbox"/> 具体的に:
	2	建築基準法	■	<input type="checkbox"/> 具体的に:
	3	消防法	■	<input type="checkbox"/> 具体的に:
	4	フロン回収破壊法	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 具体的に: 既設チラー冷媒 R22
	5	大気汚染防止法	■	<input type="checkbox"/> 具体的に:
	6	水質汚濁防止法	■	<input type="checkbox"/> 具体的に:
	7	騒音規制法	■	<input type="checkbox"/> 具体的に:
	8	振動規制法	■	<input type="checkbox"/> 具体的に:
	9	景観法	■	<input type="checkbox"/> 具体的に:
10	環境影響評価法	■	<input type="checkbox"/> 具体的に:	
D.2 環境影響評価及び環境測定	<p>(法令等によって実施が求められていない場合は省略可)</p> <p>「該当なし」</p>			
D.3 住民説明会の実施状況	<p>(法令等によって実施が求められていない場合は省略可)</p> <p>「該当なし」</p>			